ま・ち・か・どズームIN!

みなさんからのすてきな情報を待ってます!

牛乳飲んで健康で安全運転を！

交通事故防止キャンペーン「ミルク作戦」

９月14日、国道113号亘理町交差点で白石地区安全運転管理者会、事業主会と白石警察署が協力して、交通事故防止キャンペーン「ミルク作戦」を行いました。

▲牛の着ぐるみでの配布

参加した約40名の会員は、『ミんな仲良く、ルールを守って、クるまを運転しましょう』とドライバーに呼び掛けながら、牛乳と交通安全を呼び掛けるチラシを配布しました。配布した牛乳は市内の乳業協議会より提供いただいたものです。

安心して暮らせる地域社会づくり！

第51回手をつなぐ育成会宮城県大会in白石

10月１日、ホワイトキューブで「第51回手をつなぐ育成会宮城県大会in白石」が開催され、県内各地より会員とその家族のほか関係機関や団体などから約350名が参加しました。

大会では、４月から施行された「障害者自立支援法」により障害を持つ人を取り巻く環境が変化してる中で、新しい制度を生かし、安心して暮らせる地域社会づくりを目指す決議文を採択。式典後には、アトラクションなども行われました。

▲白石市手をつなぐ育成会 本人部会「ちゃれんじ」の皆さんによるアトラクション

気分“走快”高原マラソン！

第20回みやぎ蔵王高原マラソン大会

９月17日、国立南蔵王野営場周辺を会場に、みやぎ蔵王高原マラソン大会が開催され、市内外から参加した1,200人のランナーが、南蔵王の大地でマラソンを楽しみました。

第20回記念大会となる今回の大会には、ソウルオリンピック日本代表選手の浅井えり子さんがゲストランナーとして出場。

小雨が降る中、精一杯走る選手の皆さんに、沿道からは温かい拍手が送られていました。

▲親子で楽しく走りました！

白石発“世界新記録達成！”

白石ギネス流しうーめん

10月１日、白石スキー場で「流しうーめん」の世界最長記録に挑戦するイベントが開催され、たくさんの人が会場に足を運びました。

この催しは、白石と特産品であるうーめんを国内外にＰＲしようと、白石ギネス流しうーめん実行委員会が主催したものです。

1,802mの記録達成を目指して流されたうーめん。57分52秒後、歓声の中で無事ゴールにたどり着き、見事世界新記録を達成しました。

▲見事世界新記録達成！

第78回白石市民体育大会

（10月８日、白石川緑地公園陸上競技場）

昭和４年から開催されているこの大会には、1,000人を超える市民が参加。毎年恒例となったリレーや綱引き、玉入れなどの競技で心地よい汗を流していました。

▲夫婦仲良く“おしどり競争”！

歯科衛生指導実習

（10月12日、やまぶき園）

昨年に引き続き、宮城高等歯科衛生士学院の実習生14名が、白石歯科医師会の亘理薫先生、千木良あき子先生の協力のもと、検診の補助や歯の写真撮影を行いました。

▲貴重な体験に実習生も真剣

東中学校文化祭と併せて学校の歴史を紹介

（９月９日、東中学校）

文化祭に併せて、来年４月に20周年の節目を迎える同校の歴史を紹介する展示コーナーが設けられ、多くの卒業生などが見学に訪れては、懐かしそうに見入っていました。

▲昭和63年４月の開校当月の広報紙も展示

日ごろのけいこの成果を発表！

「子ども茶会」を開催

９月17日、碧水園において「子ども茶会」が開催されました。

この日は、敬老の日の前日であることから、テーマを「孫とおじいさん、おばあさんのお茶会」とし「桃太郎茶会」と名付けられました。

茶会では、６月から月２回碧水園を会場に「白石茶道子ども教室」でけいこしている、５歳から小学６年生までの子どもたち30名が、きび団子とお茶で訪れた人たちをもてなしていました。

▲お客様をもてなす子どもたち

白石を往年の名車たちが快走!!

ラ・フェスタ ミッレ ミリア2006

10月15日、国内で唯一、国際クラシックカー連盟から公認を受けているラリーレース「ラ・フェスタ ミッレミリア2006」の出場している往年の名車たちが当市を快走しました。

白石城大手門前に設置されたスタンプポイントでは、甲冑工房片倉塾の甲冑武者の皆さんとともに、レースに出場している堺正章さんや東儀秀樹さんなどの著名人を一目見ようと集まった、数百人の市民の皆さんが熱い声援を送り大歓迎しました。

▲世界の名車が次々とお城に到着

風間市長の 風のささやき 「悌」

９月６日に秋篠宮ご夫妻に長男が誕生され、ゆったりとした気持ちで、長く久しく人生を歩んでほしいとの願いを込めて『悠仁（ひさひと）』と命名されました。身の回りの品に付ける「お印」は、「高野槇（こうやまき）」だそうで、これも大きく、まっすぐに育ってほしいとのご夫妻の思いを込めているそうです。

とてもおめでたいことです。秋篠宮さま、紀子さま、悠仁親王さまのご誕生を心よりお喜び申し上げます。久しぶりに聞く慶事に、心身共に晴れやかな気持ちにさせていただきました。健やかなるご成長を心よりお祈りします。

悠仁さまとの同級生願望効果で、これからも新しい生命がたくさん誕生することを期待してしまいます。これから誕生してくる子どもたちの名前には「悠」の付く字が多くなるのでしょうかね…？

同級生効果といえば、夏の甲子園優勝校、早実の斎藤投手の進路が大学進学希望であることから、来年は早稲田大学が狭き門になるとの予想を立てている人がいましたが、斎藤投手と同窓生になりたいと思う受験生が増えてきているのだとか。う～ん…？

自分が親になると、今まで以上に親の気持ちが分かるような気がします。「小言」とは、自分の子どもたちの言動・行動をたしなめ、激励することであり、わが過ちをわが子には経験してもらいたくない親心であることを再認識させられます。わが子のことをいとおしむ親はいても、嫌いな親はいない。心配する親はいても、無関心な親はいないと思います。

しかし最近の報道を見ると、一時の感情に任せた行動が取り返しのつかない結果になったり、けと称した虐待だったり。寂しくわびしい限りの事件が多く見られます。人間が人の心を失ってしまったのでしょうか？

ある講演会での講師、F先生いわく「子どもたちは、保護者離れしているのに、親が保護者をやめない。親であることは一生だが自立させることが大切」とのこと。「なるほど」と妙に納得させられました。

「悌」とは、兄弟仲がむつまじい。また、おとなしいとの意味で、「心＋弟」で、弟として兄に従う心構えのことだそうです。

仲むつまじいことは、兄弟だけでなく、親子、夫婦そして人と人、すべてにおいて大切なことではないでしょうか。人として人のすべてを受け入れましょう。信頼・信用ということを基に。感謝する気持ちを忘れずに！

９月末には、安倍首相が誕生しました。美しい日本にするために。

話は変わりますが、「でたらめ」の語源をご存知ですか？

【10月号の答え】

「狽」は、想像上のオオカミの一種で、私たちが一般にオオカミの漢字として使用している「狼」と対をなす生き物です。前脚が長く後ろ脚が短い「狼」と、その逆に前脚が短く後ろ脚が長い「狽」は、互いに支え合って生活しており、離れると満足に歩けません。

このため、鋭い指摘などを受けて、慌てふためくことを「狼狽」と言うようになりました。